

生物多様性観測と自然の情報開示

2022年10月31日（月）13:00～16:00

現地参加（最大数44名） 東北大学片平キャンパス
生命科学研究科プロジェクト棟 大講義室



オンライン参加（ZOOM配信）

現地参加・オンライン参加の申し込みは、右のアドレスからお願いします
2022年10月26日まで

<https://e-ve.event-form.jp/event/38216/tnfd1031>

民間企業や金融機関が、自然資本および生物多様性に関するリスクや機会を適切に評価し、開示するための枠組みをつくるTNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）が発足した。今後、民間企業や金融機関が、生物多様性に関する利用や保全を適切に開示する必要が生じてくる。適切な生物多様性の利用や影響評価をどのような手法で実施するのか、については、生物多様性を扱う研究者と、企業・政府などが連携してその枠組みを提案していく必要がある。そこで、本シンポジウムでは、TNFDの現状についての報告を踏まえて、生物多様性を評価するツールの紹介とその実践例などについて報告する。さらに、研究者、企業、政府の関係者を交えて、生物多様性観測やその情報蓄積を企業活動の影響評価にどう活かすかを議論する。

プログラム

挨拶 東北大学総長 大野 英男

はじめに 河田 雅圭（東北大学・生命科学）

TNFDが示唆する自然関連情報の進化の重要性

原口 真（MS&ADインシュアランスグループホールディングスサステナビリティ推進室TNFD専任SVP）

生物多様性を巡る世界の動きとTNFDがもたらす企業への影響

藤田 香（東北大学・生命科学/日経BP社）

環境DNA観測網ANEMONEの可能性:自然資本を予測可能に変える

近藤倫生（東北大学・生命科学）

ネイチャーポジティブのテクノロジープラットフォーム： 企業活動を生物多様性ビッグデータ分析で支援する

久保田康裕（株式会社シンクネイチャー・琉球大学理学部）

政府や企業の取り組み

都市の生物多様性と定量評価～積水ハウス「5本の樹」計画を事例として

八木隆史（積水ハウス）

LEAPによる試行的開示とキリングroupの統合的アプローチ

藤原啓一郎（キリンホールディングス）

環境省の取組

浜島直子（環境省）

パネルディスカッション

主催：東北大学大学院生命科学研究科

後援：東北大学グリーン未来創造機構

後援：東北大学ナレッジキャスト株式会社

後援：東北大学社会にインパクトある研究:自然共生

問い合わせ先

東北大学大学院生命科学研究科 広報室

TEL 022-217-6193: lifsci-pr@grp.tohoku.ac.jp